

新聞に親しもう・作ってみよう!

帯広市立栄小学校 田坂 奈津子

1. はじめに

現在2年生を担任している。そのため、総合的な学習の時間や社会科の学習のように、社会の状況に広く考えをめぐらす、という学習活動から少しばかり離れている。しかし、生活科の学習を通して、2年生なりに社会と自分たちとのかかわりについて考えてもらいたいとの願いから、市内の公共施設の見学を行った。そして、その学習をいっそう深めるための手段として「新聞について知る」「新聞を作る」活動に取り組んだ。今回はその取り組みの様子を報告します。

2. 児童と新聞とのかかわり

児童と新聞とのかかわりを知るために、新聞に関するアンケートをしてみたところ、以下のような結果であった。

2年2組(24名)

Q: 新聞を読みますか?

A: 毎日読む … 3人

: 週に2・3日読む … 6人

: 月に1・2回読む … 6人

: 読んだことがない … 9人(そのうち3人は新聞をとっていない)



Q: どうして新聞を読まないのですか?

A: 興味がない

内容が理解できない

漢字が多くて読めない

学級で係新聞のようなものを作っている児童はいたが、「壁新聞」というものを知らない児童もいた。何よりアンケート結果から分かるように、新聞に対して興味関心の薄い児童が多かった。そこで、新聞とはどんなものなのか、どういった作りになっているのかという「新聞ってどんなもの?」という新聞を知る活動から指導を行った。

新聞のことを知ること、新聞を作ることをきっかけに『新聞』に興味を持って、そこから社会の事象に目を向けてもらえたらと考えている。

3. 授業実践

●生活科「のりものによって でかけよう」「こんなすてきな町なんだ」

- ◎目標 (1) 目的地にあった公共交通機関を利用して出かけ、活動を楽しむ。
- (2) 見学での体験や思ったこと、そのよさを相手にわかりやすく工夫して伝えることができる。

活動①「見学しよう！」

公共機関を利用して出かけ、施設を見学する。気づいたことをワークシートに記入する。

活動②「『新聞』ってどんなもの？」

- たくさんの人に正確に情報を伝えるにはどうしたらいいかな？
- ・本を書く、ポスターを書く、お話しする、新聞で知らせる…



- それぞれのいいところと困ったところは？
- ・本を書く…いっぱい書ける。正確に伝わる。でも、すぐにはできないね。書く量が多すぎる。
- ・ポスター…見てすぐ分かる。でも、ちゃんと伝わるかな？
- ・お話しする…すぐ伝えられる。でも、間違えて言うこともある。正確に伝わるかな？
- ・新聞…読んで正確にわかる。本よりも書きやすい。でも、書き方が分からない。

「『新聞』ってどう作るの？」



- 調べたことを新聞にしてまとめよう！
- ・新聞のよさは？ →たくさんの人に知らせることができること、どんな出来事があったのか詳しく知ることができること、読む人の時間に合わせて読めること、内容が正確なこと、調べたいことを後からでも調べられること、いろいろなひとの考えを知ることができること、などなど…。
- ・新聞の読み方は？→新聞の名前、記事の移り方、記事の重要度と書いてある場所、記事の内容などなど…。

◎実際の新聞（N I Eの記事や当日の新聞）を見せて…

「へえー！新聞ってこんなふうになっていたのか！おもしろそう！」



「みんなで新聞を作ってみよう！」

※ 授業時間のほかに学活の時間・朝の会・帰りの会などで、前日にどんな出来事があったのか記事の内容を要約して紹介したり、新聞を読んだ児童にどんな記事があったか紹介してもらったりして、新聞にはどんなことが書かれているのかを知るちょっとした時間を設けた。また、短い要約文や私の感想などを付箋に書いたものを貼った新聞

を置いた「今週の新聞」コーナーを作った。コーナーでは休み時間などにワイワイい
いながら、新聞を覗き込む子どもたちの姿が見られた。(資料①)

活動③ 「『壁新聞』ってどうやってつくるの？」

→土勝新聞教育研究会OBによる「新聞作り出前講座」の活用

- ・ 新聞の名前を決めよう
- ・ レイアウトを考えよう
- ・ 記事を書くときの決まり
- ・ カットや飾り文字を工夫しよう
- ・ どんな壁新聞を作っているのか参考にしよう

ボランティアの講師による講義で、資料等の準備
や実際の壁新聞を見ながら詳しい説明をしてい
ただけるので、とても助かります！

など

活動④ 「『壁新聞』を作ってしらべたことをまとめよう！」

(資料②)

- (1) 調べたことを箇条書きで書き出す。
- (2) グループごとにどの内容を記事にするのか、取捨選択する。
- (3) トップ記事、セカンド記事、囲み記事…などを
どの内容で埋めるのか、記事の内容に順位付けをする。
- (4) だれがどの記事を書くのか、担当者を決める。
- (5) 新聞用紙の字数を数え、その字数に合った記事を下書きする。
- (6) カットを考えたり、配色に気をつけたりして色を塗る。
- (7) 誤字脱字をチェックして清書する。

あんなことやこんなこ
とがわかったよね。いろ
いろわかったことがあ
ったなあ。

<グループでの活動>

- ・ 言語活動
- ・ 思考の広がり
- ・ 協同的作業
- ・ 他者への気づき



すごいものができ
たぞ！みんなが
がんばったなあ！

「できあがった新聞を、発表したいな！」

活動⑤ 「『壁新聞』を発表しよう！」

- だれに発表しようかな？
 - ・ 2年生同士、1年生、上級生、おうちのひと…。
- できあがったものを、みんなに見せよう。
 - ・ 廊下に掲示、玄関に掲示、小さくコピーして配布…。

4. 成果と課題

<新聞を知ることについて>

- 新聞に対する抵抗感が弱まった。(アンケート結果から 下記参照)

2年2組 (24名)

Q: 新聞を読みますか?

A: 毎日読む … 4人

: 週に2・3日読む … 11人 (学級の「新聞コーナー」も含めて)

: 月に1・2回読む … 6人 (学級の「新聞コーナー」も含めて)

: 読まない … 3人

Q: 新聞を読む (読み始めた) のはどうしてですか?

A: 面白いことが書いてある・頭がよくなる

いろいろなこと、知らないことを知ることができる

友達と話せる・おうちの人にほめられる

- 新聞に対する苦手意識を持っている児童に、字を読むだけではなく、写真や図からも情報を読み取れるということを教え、もっと興味を引き出していくとよかった。
- 難しい表現や読めない漢字などがあり、子どもたちが一人で新聞を「読む」ということはまだ難しいため、わかりやすくかみくだいて内容を説明する必要がある。
- 説明を加えないと記事の内容が理解しづらいため、教師側で新聞記事がどのような内容でどのような背景があるのかなど、事前に調べておく必要がある。
- 新聞の有用性やおもしろさを感じられるような記事の提示がなかなかできなかったため、そのときその時の児童の興味関心を把握しておく必要がある。

<壁新聞作りについて>

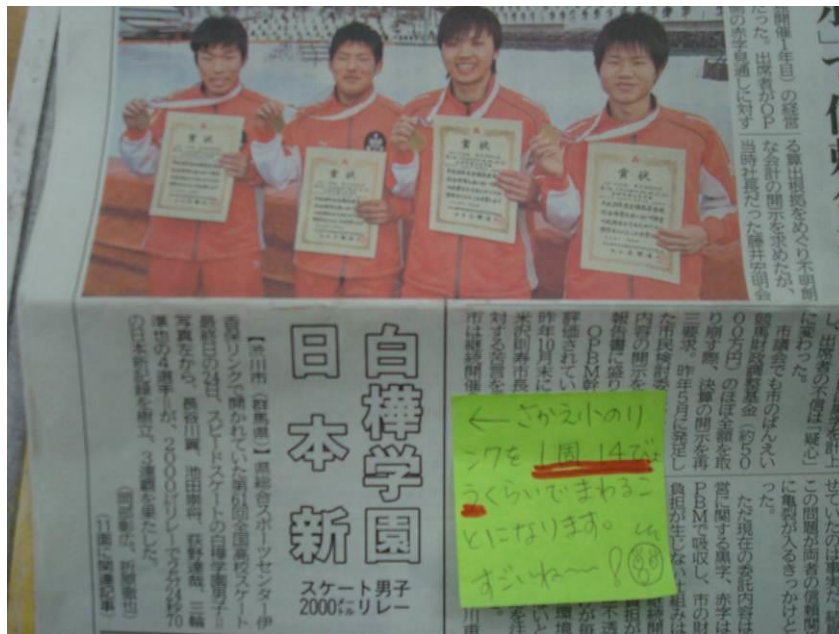
- 活発な言語活動を取り入れた学習を行うことができた。(集めた情報を文にしてまとめる、なぜその情報が重要なのかを説明する、どんな内容の記事を書くかの話し合いをするなど)
- 協同しなければ仕事ができないため、相手意識を持ちながら作業を進めようとする意識が高まった。
- 記事の内容をじっくり話し合う中で、自分の考え方と違う考えを知ったり、違う観点から考えたりするなど、子どもたち同士で教えあう態度が高まった。
- 文章を書くことを楽しんでいる様子が見られた。(休み時間も終業式の直前までも記事を推敲して記事を書いていた。条件があるほうが、燃える!)
- 次年度も総合的な学習の時間などに取り組み、今回身に付けた力を継続して発揮させたい。また、コンクールなどに出品するなどしてモチベーションを高めたい。

5. おわりに

今回は新聞を「作る」という活動から、自分たちと社会とのかかわりについて考える学習を行った。子どもたちは今まで取り組んだことのない活動だったこともあり、初めは戸惑いながら、しかし、徐々に意欲的に活動を行うことができた。また、新聞に対する抵抗感がうすれ、以前に比べて身近なものという感覚が芽生えてきている。今回は低学年ということもあり、新聞を読むことは難しいだろう、という考えから、自分で直接新聞の記事を取り上げたり読んだりして社会の動きを知る、そこから自分の考えを持ち広げる、という活動はほとんど行わなかったが、新聞に対する子どもたちの関心の高さをみると、指導者の教材研究と効果的な新聞の活用によって、そのような活動を低学年でもできるのではないかと感じた。

今後は、今までにたくさん発表されているN I Eの実践例を参考にして、N I Eを通して子どもたちに身に付けさせたい力、そのための発達段階に応じた新聞活用の仕方についてより深く考え、子どもたちに情報活用能力・事象の分析能力・情報発信能力が身に付くような実践を行っていきたいと考えている。

資料① 「今週の新聞コーナー」に置いた新聞



資料② 学級で取り組んだ壁新聞

